

Ⅱ. 基本構想

1. まちづくりの基本理念

まちづくりの基本理念とは、白井市のまちづくりの「理想」と、理想を実現するための基盤となる「まち」と「暮らし」の基本的な考え方です。

白井市を取り巻く環境は、社会経済情勢によって大きく変化しています。人口減少や少子高齢化、物価高騰、環境問題、災害の激甚化など、対応すべき社会課題は多様化し、厳しさを増しています。このような厳しい情勢であっても、行政や市民だけでなく、白井市に関わる全ての人々が連携・協働することで、「心と暮らしの豊かさを享受しつつ、幸せを実現」できると考えます。

そこで、第6次総合計画では、第5次総合計画の基本理念を踏まえつつ、「白井市に関わる全ての人々が豊かさを実感」することを理想として定めます。理想を実現するためには、「安心な暮らし」「健康な暮らし」「快適な暮らし」を営むことが重要と考えます。この3つの暮らしは、「安全なまち」「健全なまち」「便利なまち」を基盤とすることで、実現されるものです。

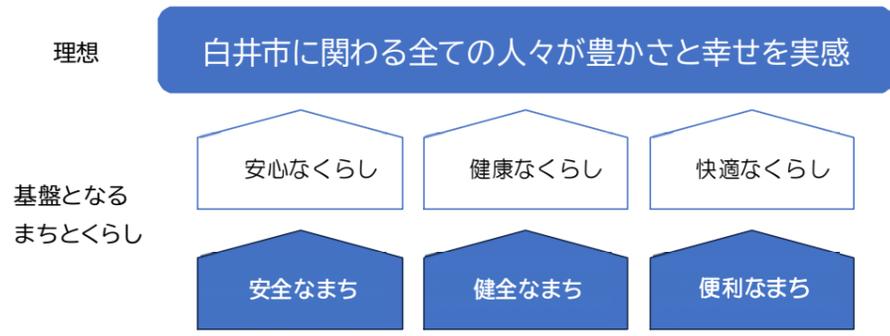


図 まちづくりの基本理念の考え方

安全なまちで安心な暮らし

緊急時や災害時の備え、インフラの整備、住民同士の助け合いなどによって、“あらゆるリスクへの対策が立てられている”安全なまちを構築することで、誰もが安心してくらすことです。

健全なまちで健康な暮らし

住民同士の社会的なつながりや、自然と都市が融合した生活環境などによって、“地域が持続的に発展し調和のとれた”健全なまちを構築することで、誰もが心身共に健康的にくらすことです。

便利なまちで快適な暮らし

生活に必要な商業施設の充実や、移動手段の確保などによって、“あらゆる人の日常生活の環境が整った”便利なまちを構築することで、子どもから高齢者まで誰もが快適にくらすことです。

Ⅱ. 基本構想

1. まちづくりの基本理念

まちづくりの基本理念とは、白井市のまちづくりの「理想」と、理想を実現するための基盤となる「まち」と「暮らし」の基本的な考え方です。

白井市を取り巻く環境は、社会経済情勢によって大きく変化しています。人口減少や少子高齢化、物価高騰、環境問題、災害の激甚化など、対応すべき社会課題は多様化し、厳しさを増しています。このような厳しい情勢であっても、行政や市民だけでなく、白井市に関わる全ての人々が連携・協働することで、「心と暮らしの豊かさを享受しつつ、幸せを実現」できると考えます。

そこで、第6次総合計画では、第5次総合計画の基本理念を踏まえつつ、「白井市に関わる全ての人々が豊かさを実感」することを理想として定めます。理想を実現するためには、「安心な暮らし」「健康な暮らし」「快適な暮らし」を営むことが重要と考えます。この3つの暮らしは、「安全なまち」「健全なまち」「便利なまち」を基盤とすることで、実現されるものです。

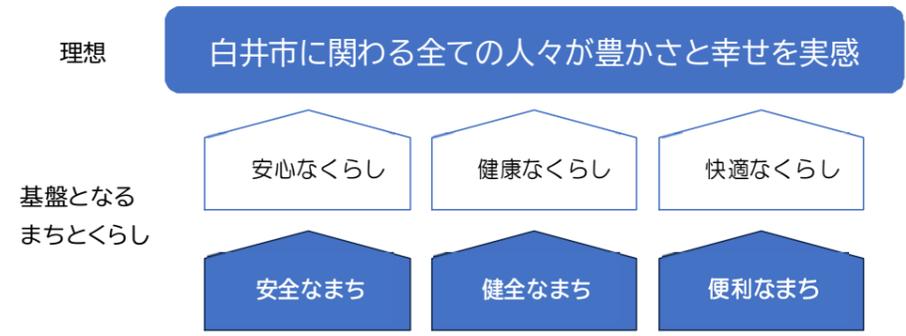


図 まちづくりの基本理念の考え方

安全なまちで安心な暮らし

緊急時や災害時の備え、インフラの整備、住民同士の助け合いなどによって、“あらゆるリスクへの対策が立てられている”安全なまちを構築することで、誰もが安心してくらすことです。

健全なまちで健康な暮らし

住民同士の社会的なつながりや、自然と都市が融合した生活環境などによって、“地域が持続的に発展し調和のとれた”健全なまちを構築することで、誰もが心身共に健康的にくらすことです。

便利なまちで快適な暮らし

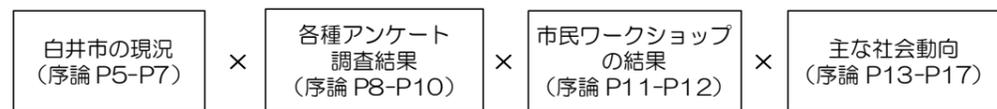
生活に必要な商業施設の充実や、移動手段の確保などによって、“誰もが日常生活に支障がない環境が整った”便利なまちを構築することで、子どもから高齢者まで誰もが快適にくらすことです。

パブコメ意見

下から2行目の「誰もが日常生活に支障がない、環境が整った」
→「全ての人の日常生活の環境が整った」
としては、いかがでしょうか。
「支障がない」ですとマイナスのイメージですので、「支障がない」という文言は、避けた方が良くと思います。

2. 今後10年間の重要なテーマ

まちづくりの基本理念を念頭に置きつつ、序論で取り上げた「白井市の現況」、「各種アンケート調査結果」、「意見交換会の結果」、「主な社会動向」を踏まえ、今後10年間で取り組んでいくべき重要なテーマを次のように定めます。



今後10年間の重要なテーマ

- | | |
|-----------------------|----------------------|
| (1) 若い世代や子育て世代への支援の充実 | (6) 居場所・交流の場の創出 |
| (2) 人生100年時代に向けた福祉の充実 | (7) 施設・インフラの維持管理や利活用 |
| (3) 良好な住環境の維持・整備 | (8) 移動・交通手段の充実 |
| (4) 産業の振興 | (9) 災害への対策 |
| (5) 企業の誘致・雇用の創出 | (10) 環境の保全と活用 |

(1) 若い世代や子育て世代への支援の充実

千葉ニュータウン事業に伴い人口が急増した白井市では、団塊の世代の人口比率が高く、少子高齢化は今後一層進行していくことが見込まれます。

持続可能なまちづくりを行うにあたっては、若い世代が定住し、人口のバランスを保つことが求められます。

結婚や子育てなどへの不安を抱える若い世代が多い中で、ライフステージが変化しても安心して生活できる環境づくりが重要です。

また、白井市で子育てしたいと思える魅力を高めるために、充実した教育環境を整備することも重要です。

(2) 人生100年時代に向けた福祉の充実

日本では高齢化と長寿化が進み、今後「人生100年時代」を迎えることが予測されています。白井市では、千葉ニュータウン事業に伴い人口が急増し発展してきましたが、人口比率の高い団塊の世代は既に後期高齢者に該当しており、10年後には、更に後期高齢者の人口比率が増加することが見込まれます。

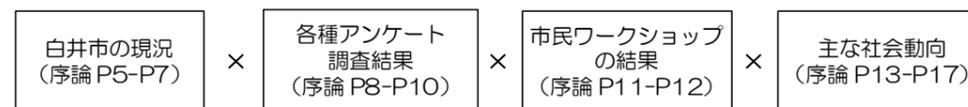
人生100年時代に向けて、**誰もが**健康を維持しながら生涯にわたって学び、互いに支え合いながらいきいきと活躍し続けられるまちづくりが求められます。

(3) 良好な住環境の維持・整備

白井市は、豊かなみどりと落ち着いた住環境が調和したまちです。

2. 今後10年間の重要なテーマ

まちづくりの基本理念を念頭に置きつつ、序論で取り上げた「白井市の現況」、「各種アンケート調査結果」、「意見交換会の結果」、「主な社会動向」を踏まえ、今後10年間で取り組んでいくべき重要なテーマを次のように定めます。



今後10年間の重要なテーマ

- | | |
|-----------------------|----------------------|
| (1) 若い世代や子育て世代への支援の充実 | (6) 居場所・交流の場の創出 |
| (2) 人生100年時代に向けた福祉の充実 | (7) 施設・インフラの維持管理や利活用 |
| (3) 良好な住環境の維持・整備 | (8) 移動・交通手段の充実 |
| (4) 産業の振興 | (9) 災害への対策 |
| (5) 企業の誘致・雇用の創出 | (10) 環境の保全と活用 |

(1) 若い世代や子育て世代への支援の充実

千葉ニュータウン事業に伴い人口が急増した白井市では、団塊の世代の人口比率が高く、少子高齢化は今後一層進行していくことが見込まれます。

持続可能なまちづくりを行うにあたっては、若い世代が定住し、人口のバランスを保つことが求められます。

結婚や子育てなどへの不安を抱える若い世代が多い中で、ライフステージが変化しても安心して生活できる環境づくりが重要です。

また、白井市で子育てしたいと思える魅力を高めるために、充実した教育環境を整備することも重要です。

(2) 人生100年時代に向けた福祉の充実

日本では高齢化と長寿化が進み、今後「人生100年時代」を迎えることが予測されています。白井市では、千葉ニュータウン事業に伴い人口が急増し発展してきましたが、人口比率の高い団塊の世代は既に後期高齢者に該当しており、10年後には、更に後期高齢者の人口比率が増加することが見込まれます。

人生100年時代に向けて、健康を維持しながら生涯にわたって学び、互いに支え合いながらいきいきと活躍し続けられるまちづくりが求められます。

パブコメ意見

(2) 人生100年時代に向けた福祉の充実とありますが、この記載の仕方ですと、高齢者福祉だけの充実とわかってしまいます。人生100年は網羅していると言われると思いますが、児童、障害、ひとり親、貧困という文言を入れた方がわかりやすいと考えます。

II. 基本構想

しかしながら、千葉ニュータウン事業による街開きから40年以上が経過している中で、将来にわたって良好な住環境を維持していくことが求められており、建物の老朽化などへの対応が重要です。

また、ニュータウン地域のみならず、白井市全体において高齢化や人口減少の進展に伴う空き家や未利用地への対応が求められています。

(4) 産業の振興

白井市では、水はけのよい土壌を活かし、梨をはじめとした様々な農作物を生産しています。

しかしながら、農業の担い手の減少などにより、耕作放棄地の増加が一層進行することが懸念されることから、持続可能な農業の実現に向けて取り組んでいくことが重要です。

また、成田空港の拡張や北千葉道路の整備などによって、白井市を取り巻く環境が変化していくことが想定されています。

こうした広域的なアクセス向上などを好機と捉え、千葉県内陸で最大規模の白井工業団地や商業の活性化を図っていくことが求められています。

(5) 企業の誘致・雇用の創出

白井市では、特に就職や転職を理由とした若い世代の転出が多くなっています。

若い世代に長く白井市に住み続けたいと感じてもらうためには、市内に魅力的な働く場を増やすことが求められています。住まいと職場が近いことは、子育てしやすい環境づくりにもつながることが期待されます。

また、人口減少や高齢化が見込まれる中でも持続可能な行財政運営を実現するためには、新たな財源の確保が求められます。

白井市では、下総台地というしっかりとした地盤をもち、付近に活断層が見受けられないなど、地震に強いことや安定した電力供給などを強みとして、データセンターなどの企業誘致が進んでいます。白井市が持続的に発展していくためにも、引き続き地域との調和を図りながら、市の強みを活かした企業誘致を進めることが重要です。

(6) 居場所・交流の場の創出

白井市においても、市民のライフスタイルの変化や多様化によって、働き方や暮らし方などに変化が起き、それに伴い人間関係やコミュニティのあり方が変化し、それぞれが安心できる居場所が求められるようになっていきます。

また、近年、外国籍の人や障がいのある人など、住民が多様化する中で、共生社会の実現のためにも、互いを知る機会を増やし、相互理解を図ることができる交流の場の創出も求められています。

居場所や交流の場の創出を基盤とした、多様な市民が地域社会に参画する仕組みづくりが重要です。

II. 基本構想

(3) 良好な住環境の維持・整備

白井市は、豊かなみどりと落ち着いた住環境が調和したまちです。

しかしながら、千葉ニュータウン事業による街開きから40年以上が経過している中で、将来にわたって良好な住環境を維持していくことが求められており、建物の老朽化などへの対応が重要です。

また、ニュータウン地域のみならず、白井市全体において高齢化や人口減少の進展に伴う空き家や未利用地への対応が求められています。

(4) 産業の振興

白井市では、水はけのよい土壌を活かし、梨をはじめとした様々な農作物を生産しています。

しかしながら、農業の担い手の減少などにより、耕作放棄地の増加が一層進行することが懸念されることから、持続可能な農業の実現に向けて取り組んでいくことが重要です。

また、成田空港の拡張や北千葉道路の整備などによって、白井市を取り巻く環境が変化していくことが想定されています。

こうした広域的なアクセス向上などを好機と捉え、千葉県内陸で最大規模の白井工業団地や商業の活性化を図っていくことが求められています。

(5) 企業の誘致・雇用の創出

白井市では、特に就職や転職を理由とした若い世代の転出が多くなっています。

若い世代に長く白井市に住み続けたいと感じてもらうためには、市内に魅力的な働く場を増やすことが求められています。また、住まいと職場が近いことは、子育てしやすい環境づくりにもつながることが期待されます。

また、白井市では、下総台地というしっかりとした地盤をもち、付近に活断層が見受けられないなど、地震に強いことや安定した電力供給などを強みとして、データセンターなどの企業誘致が進んでいます。白井市が持続的に発展していくためにも、地域との調和を図りながら、ポテンシャルを活かした企業誘致を進めることが重要です。

(6) 居場所・交流の場の創出

ライフスタイルの変化や多様化によって、組織や場所にとらわれない働き方や暮らし方などに変化が起き、それに伴いそれぞれのライフスタイルに適した様々な居場所が求められるようになっていきます。白井市においても同様に、居場所づくりの重要性が増しています。

近年、外国籍の人や障がいのある人など、住民が多様化する中で、共生社会の実現のためにも、あらゆる人が安心できる場や交流できる場の創出が求められています。

加えて、居場所や交流の場の創出を基盤として、多様な市民が地域社会に参画する仕組みづくりも求められています。

パブコメ意見

5. まちづくり推進の考え方に記されています持続可能な行財政運営をどうやっていくかというテーマが重要だと思います。歳入を維持、増加することが不可欠で、人口が減少するなかで個人からの税収は期待できず、そのためには、産業の誘致が不可欠だと思います。どういう産業を狙うのか方向性を示すことが必要ではないでしょうか。強固な地盤を活かしたデータセンター、梨とIT企業連携したスマート農業など芽が出始めているように思います。焦点を示すことが大事だと思います。

パブコメ意見

10 のテーマは、全体として重要な課題を網羅していると思いますが、その中で、「(6) 居場所・交流の場の創出」というテーマが、今一つどういうことをイメージしているのか分かりかねます。ほかの9テーマと同様の重みづけになるテーマだとするとその重要性が感じられる内容を示していただいた方がよいと思います。

(7) 施設・インフラの維持管理や利活用

白井市の施設やインフラの多くは、千葉ニュータウン事業によって整備されましたが、ニュータウンの街開きから40年以上経過しているため、老朽化などへの対応が求められています。

また、施設・インフラの維持管理にあたっては、既存ストックの有効活用に加え、人口減少や高齢化を見据えたマネジメントが重要です。

(8) 移動・交通手段の充実

現在の白井市民の主な移動手段は自家用車ですが、高齢化により、自家用車に依存せずに生活できる環境の重要性が増すことが想定されます。一方で、運転手の不足などによってバス路線の減便や廃止が進んでいます。

地域の実状に則しながら、高齢者をはじめとした、誰もが気軽に移動できる手段を確保することが求められています。

(9) 災害への備え・対策

将来想定される首都直下地震や近年激甚化する自然災害に備えるためには、白井市の地勢を踏まえた被害の想定と、**それに**基づいた事前準備が必要です。

また、災害時の被害を最小限とするためには、早期にライフラインを復旧させる、または代替手段を確保することが重要です。

さらに、いざという時には、適切な行動がとれるように、防災意識の向上に努めるとともに、行政だけでなく、市民や企業が団結して自助・共助・公助によって対応できる体制づくりが求められています。

(10) 環境の保全と活用

近年、都市環境や生物多様性、景観といった視点で、自然環境の保全と都市緑化の推進が重要視されています。

白井市には、地域固有の特徴を有する谷津田や梨園、千葉ニュータウン事業で形成された公園や緑道など、多様なみどりが存在しています。

このような白井市の豊かな環境を、後世に残していくとともに活用していくことが求められています。

併せて、「ゼロカーボンシティ」の実現に向けてカーボンニュートラルへの取組を進めることも重要です。

(7) 施設・インフラの維持管理や利活用

白井市の施設やインフラの多くは、千葉ニュータウン事業によって整備されましたが、ニュータウンの街開きから40年以上経過しているため、老朽化などへの対応が求められています。

また、施設・インフラの維持管理にあたっては、既存ストックの有効活用に加え、人口減少や高齢化を見据えたマネジメントが重要です。

(8) 移動・交通手段の充実

現在の白井市民の主な移動手段は自家用車ですが、高齢化により、自家用車に依存せずに生活できる環境の重要性が増すことが想定されます。一方で、運転手の不足などによってバス路線の減便や廃止が進んでいます。

地域の実状に則しながら、高齢者をはじめとした、誰もが気軽に移動できる手段を確保することが求められています。

(9) 災害への対策

将来想定される首都直下地震や近年激甚化する自然災害に備えるためには、白井市の地勢を踏まえた被害の想定と、その想定に基づいた事前準備が必要です。

また、災害時の被害を最小限とするためには、早期にライフラインを復旧させる、または代替手段を確保することが重要です。

さらに、いざという時には、適切な行動がとれるように、防災意識の向上に努めるとともに、行政だけでなく、市民や企業が団結して自助・共助・公助によって対応できる体制づくりが求められています。

(10) 環境の保全と活用

近年、都市環境や生物多様性、景観といった視点で、自然環境の保全と都市緑化の推進が重要視されています。

白井市には、地域固有の特徴を有する谷津田や梨園、千葉ニュータウン事業で形成された公園や緑道など、多様なみどりが存在しています。

このような白井市の豊かな環境を、後世に残していくとともに活用していくことが求められています。

併せて、「ゼロカーボンシティ」の実現に向けてカーボンニュートラルへの取組を進めることも重要です。

2/7 部長会議
 災害への対策より「備え・対策」の方が適切ではないか。+適切な表現に修正

3. 将来像

重要なテーマを踏まえ、10年後の白井市の目指すべき方向性を示すものとして、将来像を定めます。

白井市は、台地上に形成された古代の**集落**に始まり、近世の宿場・牧など、長い歴史を紡いできました。その後、第二次世界大戦後の開拓事業や高度経済成長期以降の工業団地開発や千葉ニュータウン事業によって、大きく発展してきました。しかし、総人口は平成30年（2018年）の約64,000人をピークに減少傾向にあることから持続可能なまちづくりのあり方を模索していく必要があります。

循環

白井市は千葉ニュータウン事業に併せて同時期に多くの世帯が入居してきたため、今後、住民の高齢化及び建物やインフラの老朽化が急速に進んでいくことが予想されます。在来地区では、産業構造の変化や担い手不足により、農を中心とした営みが衰退しつつあります。こうしたリスクに対して、白井市に備わった資源を「循環」させ、関係する様々な人々が持続可能な営みを実現できるような環境や仕組みを生み出さなければなりません。

挑戦

広く国内や世界に目を向けると、社会課題は多様化、複雑化していますが、技術革新や生活様式の変化などによって、新たな対応策も生まれています。特に、千葉ニュータウンエリアは、近年、データセンターや物流倉庫の立地場所として注目を集めるほか、**今後は**成田空港の拡張や北千葉道路の延伸などによって、新たな開発需要などの発生も見込まれます。こうした、社会潮流をとらえ、新たな「挑戦」に踏み出すことが求められています。

守り

一方で、白井市には、豊かな自然環境や**千葉**ニュータウン事業で整備された良好な住環境があり、人とのつながりの中で白井らしい文化を育んできました。新たな循環を活性化し挑戦する中でも、将来の少子高齢化や人口減少を見据えながら、こうした環境や文化を「守り」、次世代に継承していかなければなりません。

以上を踏まえ、白井市の将来像を次のように定めます。

将来像

世代を超えた 笑顔と豊かさを 未来へつなぐまち

この将来像には、白井市に関わる全ての人々の幸せあふれる笑顔と、心とくらしの豊かさを「守り」、絶やさないように、未来へつなげていく「挑戦」をすることで、世代を超えた笑顔と豊かさが絶えず「循環」するまちにしていきたいという想いが込められています。

3. 将来像

重要なテーマを踏まえ、10年後の白井市の目指すべき方向性を示すものとして、将来像を定めます。

白井市は、台地上に形成された古代の**ムラ**に始まり、近世の宿場・牧など、長い歴史を紡いできました。その後、第二次世界大戦後の開拓事業や高度経済成長期以降の工業団地開発や千葉ニュータウン事業によって、大きく発展してきました。しかし、総人口は平成30年（2018年）の約64,000人をピークに減少傾向にあることから持続可能なまちづくりのあり方を模索していく必要があります。

循環

白井市は千葉ニュータウン事業に併せて同時期に多くの世帯が入居してきたため、今後、住民の高齢化及び建物やインフラの老朽化が急速に進んでいくことが予想されます。在来地区では、産業構造の変化や担い手不足により、農を中心とした営みが衰退しつつあります。こうしたリスクに対して、白井市に備わった資源を「循環」させ、関係する様々な人々が持続可能な営みを実現できるような環境や仕組みを生み出さなければなりません。

挑戦

広く国内や世界に目を向けると、社会課題は多様化、複雑化していますが、新たな技術革新や生活様式の変化などによって、新たな対応策も生まれています。特に、千葉ニュータウンエリアは、近年、データセンターや物流倉庫の立地場所として注目を集めるほか、将来的には成田空港の拡張や北千葉道路の延伸などによって、新たな開発需要などの発生も見込まれます。こうした、社会潮流をとらえ、新たな「挑戦」に踏み出すことが求められています。

守り

一方で、白井市には、豊かな自然環境やニュータウン事業で整備された良好な住環境があり、人とのつながりの中で白井らしい文化を育んできました。新たな循環を活性化し挑戦する中でも、将来の少子高齢化や人口減少を見据えながら、こうした環境や文化を「守り」、次世代に継承していかなければなりません。

以上を踏まえ、白井市の将来像を次のように定めます。

将来像

世代を超えた 笑顔と豊かさを 未来へつなぐまち

この将来像には、白井市に関わる全ての人々の幸せあふれる笑顔と、心とくらしの豊かさを「守り」、絶やさないように、未来へつなげていく「挑戦」をすることで、世代を超えた笑顔と豊かさが絶えず「循環」するまちにしていきたいという想いが込められています。

2/7 部長会議

「ムラ」より「集落」としたほうが分かりやすいのではないか。

+適切な表現に修正

4. 6つの目指すまち

将来像の実現に向けたまちづくりを進める上で目指すべき方向性として、「6つの目指すまち」を定めます。

人々の営みの中で、循環が活性化されるためには、時代の変化に応じて新たに「挑戦」していくことと、長い歴史の中で紡いできた白井らしさを「守る」ことが大切です。6つの目指すまちに向けて、世代や分野にとらわれずに白井市に関わる全ての人々が交わり、「挑戦」と「守り」を実践することで、「循環」を活性化し、将来像を実現していきます。

<p>①若い世代が定住したいまち</p>	<p>②誰もが交流し支え合えるまち</p>
<p>若い世代が継続して居住し、人口構造のバランスがよいまちを目指します。 そのために、就学、就職、結婚、出産、子育てなどのライフステージの変化があっても、若い世代が安心・健康・快適に過ごせる環境づくりを推進します。また、白井市で子育てしたいと思える充実した教育環境づくりを推進します。</p>	<p>多様な主体が交流し相互理解を深め、共に支え合うことで地域課題を解決できるまちを目指します。 そのために、それぞれが連携し新たな居場所や交流の場の創出を進めるとともに、多くの人々がまちづくりへ参画できる仕組みづくりを推進します。また、既存の施設を有効活用した地域活動の活性化や誰もが気軽に移動できる環境づくりを推進します。</p>
<p>③自ら学び育ちチャレンジできるまち</p>	<p>④白井らしい環境が残るまち</p>
<p>一人ひとりが自ら学び育ち、自らの能力を発揮するためにチャレンジし、生きがいを持って暮らすことができますまちを目指します。 そのために、子どもから高齢者まで、生涯にわたって成長できる環境づくりを進めるとともに、一人ひとりが地域の活性化につながる活動に挑戦できる仕組みづくりを推進します。また、多くの市民が、心身の健康を保ち・増進できる環境づくりを推進します。</p>	<p>自然環境と都市環境が調和する「白井らしさ」を持つ資源が次世代に継承されるまちを目指します。 そのために、「白井らしさ」を持つ資源を発掘・共有し、自然環境の保全や利活用を進めるとともに、持続可能な農業を実現し、みんなが誇りに思える白井市の特産品を後世に残す取組を推進します。 また、老朽化した建物への対応を進めるとともに、空き家対策や未利用地の有効活用を推進します。</p>
<p>⑤新しい産業が栄えるまち</p>	<p>⑥災害に強いまち</p>
<p>分野を超えた連携などによって、新たな産業とともに発展するまちを目指します。 そのために、既存の産業が持続的に発展しつつ、互いの強みや白井市の特性を活かした新しい産業の振興を推進します。 また、地域のポテンシャルを活かした企業誘致により、新しい産業を発展させるとともに、雇用の創出を推進します。</p>	<p>災害に強く、安全・安心を基盤に永く発展し続けるまちを目指します。 そのために、既存のインフラの維持管理や修繕を着実に実行するとともに、既存施設の有効活用を推進します。 また、日ごろから防災意識の向上や、市民や企業などが団結した地域全体での災害体制づくりを推進します。</p>

4. 6つの目指すまち

将来像の実現に向けたまちづくりを進める上で目指すべき方向性として、「6つの目指すまち」を定めます。

人々の営みの中で、循環が活性化されるためには、時代の変化に応じて新たに「挑戦」していくことと、長い歴史の中で紡いできた白井らしさを「守る」ことが大切です。6つの目指すまちに向けて、世代や分野にとらわれずに白井市に関わる全ての人々が交わり、「挑戦」と「守り」を実践することで、「循環」を活性化し、将来像を実現していきます。

<p>①若い世代が定住したいまち</p>	<p>②誰もが交流し支え合えるまち</p>
<p>若い世代が継続して居住し、人口構造のバランスがよいまちを目指します。 そのために、就学、就職、結婚、出産、子育てなどのライフステージの変化があっても、若い世代が安心・健康・快適に過ごせる環境づくりを推進します。また、白井市で子育てしたいと思える充実した教育環境づくりを推進します。</p>	<p>多様な主体が交流し相互理解を深め、共に支え合うことで地域課題を解決できるまちを目指します。 そのために、新たに居場所や交流の場の創出を進めるとともに、多くの人々がまちづくりへ参画できる仕組みづくりを推進します。また、既存の施設を有効活用した地域活動の活性化や誰もが気軽に移動できる環境づくりを推進します。</p>
<p>③自ら学び育ちチャレンジできるまち</p>	<p>④白井らしい環境が残るまち</p>
<p>一人ひとりが自ら学び育ち、自らの能力を発揮するためにチャレンジし、生きがいを持って過ごせるまちを目指します。 そのために、子どもから高齢者まで、生涯にわたって成長できる環境づくりを進めるとともに、一人ひとりが地域の活性化につながる活動に挑戦できる仕組みづくりを推進します。また、多くの市民が、心身の健康を保ち・増進できる環境づくりを推進します。</p>	<p>自然環境と都市環境が調和する「白井らしさ」を持つ資源が次世代に継承されるまちを目指します。 そのために、「白井らしさ」を持つ資源を発掘・共有し、自然環境の保全や利活用を進めるとともに、持続可能な農業を実現し、みんなが誇りに思える白井市の特産品を後世に残す取組を推進します。 また、老朽化した建物への対応を進めるとともに、空き家対策や未利用地の有効活用を推進します。</p>
<p>⑤新しい産業が栄えるまち</p>	<p>⑥災害に強いまち</p>
<p>分野を超えた連携などによって、新たな産業とともに発展するまちを目指します。 そのために、既存の産業が持続的に発展しつつ、互いの強みや白井市の特性を活かした新しい産業の振興を推進します。 また、地域のポテンシャルを生かした企業誘致により、新しい産業を発展させるとともに、雇用の創出を推進します。</p>	<p>災害に強く、安全・安心を基盤に永く発展し続けるまちを目指します。 そのために、既存のインフラの維持管理や修繕を着実に実行するとともに、既存施設の有効活用を推進します。 また、日ごろから防災意識の向上や、市民や企業などが団結した地域全体での災害体制づくりを推進します。</p>

パブコメ意見

将来像実現に向けた6つの目指すまちについてのコメントです。「②誰もが交流し支え合えるまち」についてですが、多様な主体が連携してまちづくりを行うことにはとても賛成です。ここでも居場所・交流の場という言葉が出ていますが、もう一歩踏み込んで、行政、地場の産業（農業、工業、ITなど）、市民、学校、福祉施設などが協働でいきいきとしたまちを創り上げるということとその実現のための仕組みづくりを述べられないでしょうか。

2/7 部長会議

適切な表現に修正

II. 基本構想

5. まちづくりの推進の考え方

まちづくりを推進するためには、多様な主体が参画し、役割分担をしながら連携・協力していくことが不可欠です。将来像と6つの目指すまちの実現に向けて、まちづくりの推進の考え方を示します。

(1) 課題や資源の<共有>

社会情勢の変化によって多様な行政需要が高まる中、白井市では持続可能な行財政運営に努めながら、市民と行政がそれぞれの役割分担や連携の下でまちづくりを進めてきました。

人口減少などを踏まえると、白井市を取り巻く状況はより厳しくなることが考えられます。

一方、近年関心の高まりを見せている脱炭素社会の実現や人手不足への対応、先進技術の導入、デジタル技術の活用など、社会課題やその課題に対する取組はより多様化・高度化が進んでいます。

白井市においても社会課題に対して DX の推進などにより効率化を図り、課題解決に向けて推進していきますが、限りある「資源（空間・人材・情報など）」の中で将来像を実現していくためには、白井市に関わる様々な主体の間で課題や資源を共有し、新たな価値を創出するとともに、地域課題を解決することも求められます。

そのため白井市は、課題や資源を共有するため、地方創生 SDGs 官民連携プラットフォーム※などの既存のプラットフォームの活用や新たなプラットフォーム（仕組み）をつくることにより取り組んでいきます。

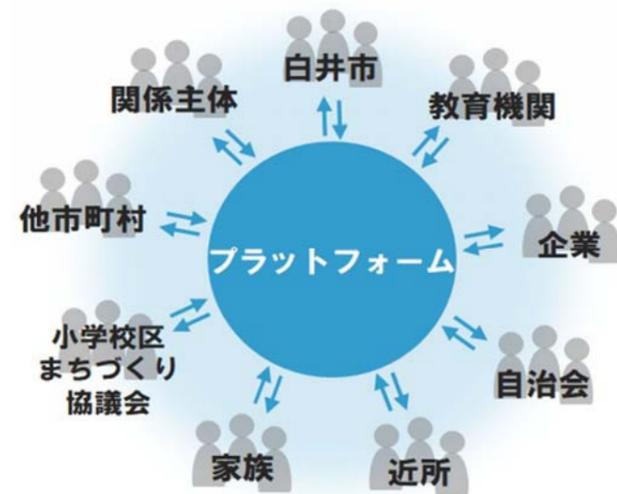


図 課題・資源の<共有>イメージ

II. 基本構想

5. まちづくりの推進の考え方

まちづくりを推進するためには、多様な主体が参画し、役割分担をしながら連携・協力していくことが不可欠です。将来像と6つの目指すまちの実現に向けて、まちづくりの推進の考え方を示します。

(1) 課題や資源の<共有>

社会情勢の変化によって多様な行政需要が高まる中、白井市では持続可能な行財政運営に努めながら、市民と行政がそれぞれの役割分担や連携の下でまちづくりを進めてきました。

人口減少などを踏まえると、今後も白井市を取り巻く状況はより厳しくなることが考えられます。

一方、近年関心の高まりを見せている脱炭素社会の実現や人手不足への対応、先進技術の導入、デジタル技術の活用など、社会課題はより多様化・高度化が進んでいます。

限りある「資源（空間・人材・情報など）」の中で将来像を実現していくために、白井市に関わる様々な主体の間で課題や資源を共有し、新たな価値を創出するとともに、地域課題を解決することが求められます。

そのため白井市は、課題や資源を共有するため、地方創生 SDGs 官民連携プラットフォーム※などの既存のプラットフォームの活用や新たなプラットフォーム（仕組み）をつくることにより取り組んでいきます。

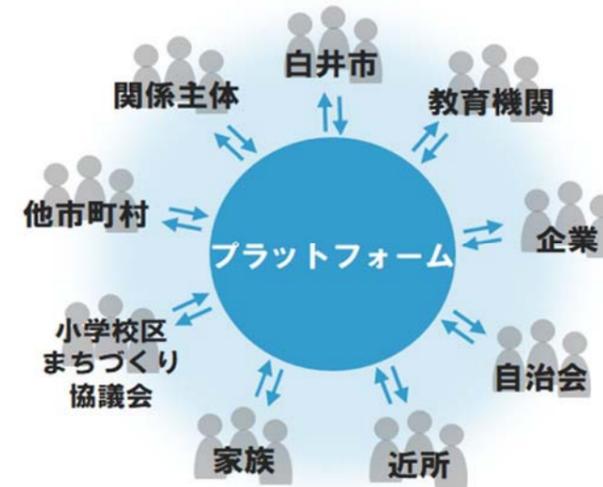


図 課題・資源の<共有>イメージ

パブコメ意見

行政サービスをどうしていくのかという視点も加えるべきではないでしょうか。現在の市役所のサービスは、私自身退職後様々なサービスを受ける機会がありましたが、市の職員の方々は皆さんとても親切で行き届いていると実感しました。一方で、人手不足や、高齢化に合わせたサービスの充実などの課題にも対処が必要になります。そのためには、デジタル技術を活用し、IT化、効率化を進めることが不可欠です。最近では従来より低コストで実現できる技術基盤がそろっています。デジタル化で生じた余力を、ITに弱い高齢者向けのサービスや福祉行政に振り向けていくことが大きな方向ではないでしょうか。

※地方創生 SDGs 官民連携プラットフォーム
SDGs の国内実施を促進し、より一層の地方創生につなげることを目的に、広範なステークホルダーとのパートナーシップを深める官民連携の場として内閣府で設置しているもの。

※地方創生 SDGs 官民連携プラットフォーム
SDGs の国内実施を促進し、より一層の地方創生につなげることを目的に、広範なステークホルダーとのパートナーシップを深める官民連携の場として内閣府で設置しているもの。

(3) 多様な主体との<連携・協働>

人口減少・少子高齢社会が本格化する中、人材や財源などの行政資源には限りがあることから、より効果的・効率的に行政資源を使用していくことが求められていきます。

そのためには、様々なまちづくり資源を引き出し、育み、活かしていくことが求められ、市民・民間・地域などでできないことを行政が補完していく「補完性の原理※」という考え方が重要です。

まちづくりの主役は市民です。まちづくりにおける課題は、より身近なところで解決されることが望まれます。

行政の役割としては、市民や地域の取組を補完するとともに、多様な主体が対話を重ねながら自助・共助・公助のあり方を考え、自らの活動や支え合いを促進するような環境整備が求められます。

そのため白井市は、多様な主体が連携・協働できる仕組みづくりを充実させていきます。

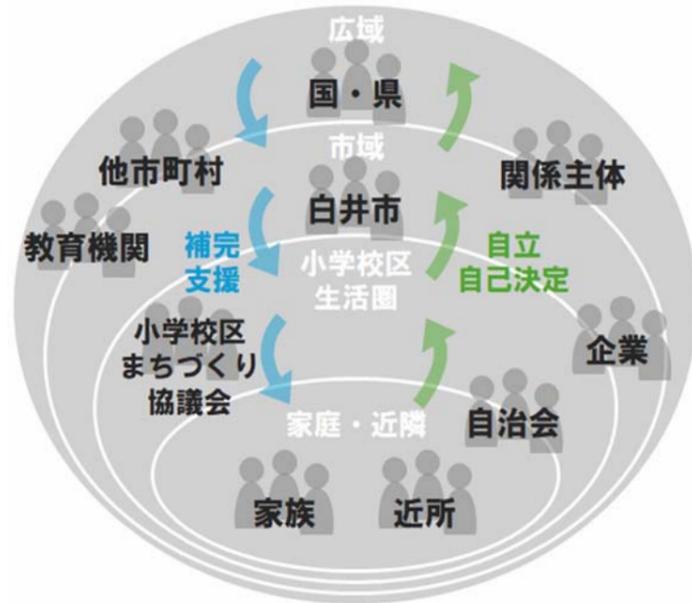


図 多様な主体との<連携・協働>イメージ

※補完性の原理

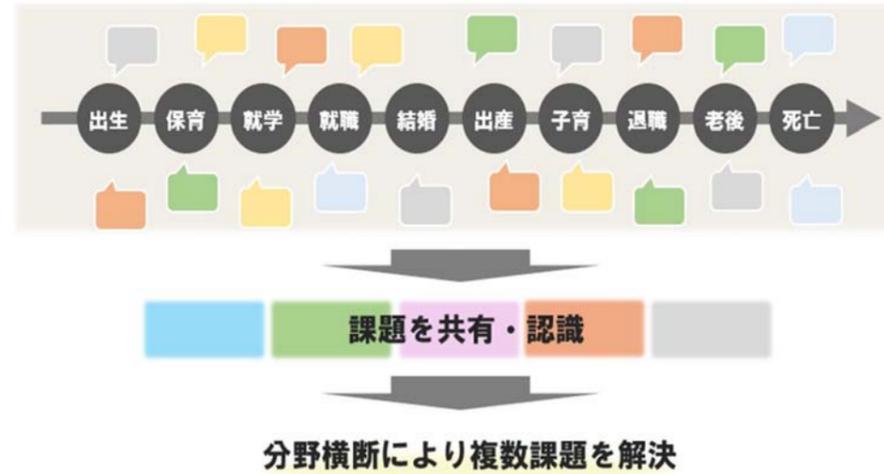
より身近な単位の自主性・自立性を最大限に尊重し、対応が困難な事柄については、より大きな単位が補完・支援をすることを原則とする考え方。

(2) <分野横断>での取組

社会問題が多様化・高度化する中では、単一の部署の中だけでは対応が難しくなっています。また、各々のライフステージの変化によらず、切れ目ない行政支援の重要性も増えています。

より有効性・効率性の高い取組を推進するには、課題解決に向けて関係する多様な人々が連携して取り組んでいくことが求められます。

そのため白井市は、分野にとらわれず全体で課題を共有・認識し、一体となって課題を解決する体制を構築していきます。



(3) 多様な主体との<連携・協働>

まちづくりの主役は市民であり、まちづくりにおける課題は、より身近なところで解決されることが望まれます。

「補完性の原理」※に基づくと、関係する主体が相互に支え合い、それぞれが主体的にまちづくりに取り組んでいくことが重要です。行政の役割としては、市民や地域の取組を補完するとともに、多様な主体自らの活動や支え合いを促進するような環境整備が求められます。

そのため白井市は、多様な主体が連携・協働できる仕組みづくりを充実させていきます。

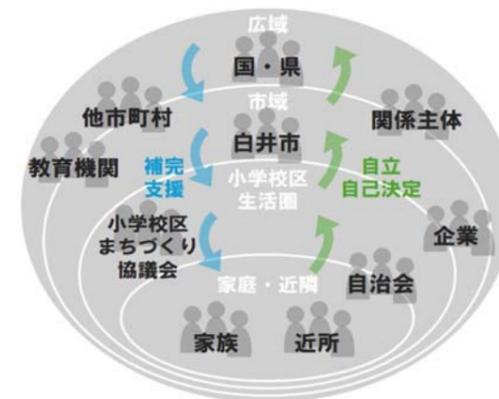


図 多様な主体との<連携・協働>イメージ

※補完性の原理

より身近な単位の自主性・自立性を最大限に尊重し、対応が困難な事柄については、より大きな単位が補完・支援をすることを原則とする考え方。

バブコメ意見

「補完性原理」に触れている箇所では、以下のポイントが追加・反映できると、説明としてはさらに良くなると思われます。

・人口減少・少子高齢社会が本格化する中、行政資源（税金）には限りが出てくることから、税金は真に必要なところに投下していくことが求められていく。

・そのためには、様々なまちづくり資源を引き出し、育み、活かしていくことが求められ、市民・民間・地域でできないことを行政が補完していくという考え方が必要とされる。

・自助・共助・公助のあり方は、市民・行政・民間が対話を重ねながら捉え直していくことが問われる。

7.2 将来都市構造

将来都市構造を次のように定めます。

これまで築き上げてきた白井市の財産であるみどりを白井市全域に活かすために、白井市全域を「人とみどりの共生エリア」とし、みどりを活かした美しい景観やおしゃれさの追求など人とみどりが共生するまちづくりを進めます。

中でも「市街地ゾーン」では、人のくらしや産業を中心としたまちづくりを進め、「地域の魅力活用ゾーン」では、地域の特性や魅力を活かしたまちづくりを進めます。

「中心都市拠点」では、コンパクトでにぎわいのある拠点づくりを進め、「生活拠点」では、地域住民のくらしを支える拠点づくりを進めます。

また、「広域幹線軸」や「地域軸」では、利便性を活かして沿道などに産業を誘致し、「中心都市拠点」や「生活拠点」と市内の各地域、そして市外を各軸によって結ぶことで、にぎわいの創出や利便性の向上を図ります。

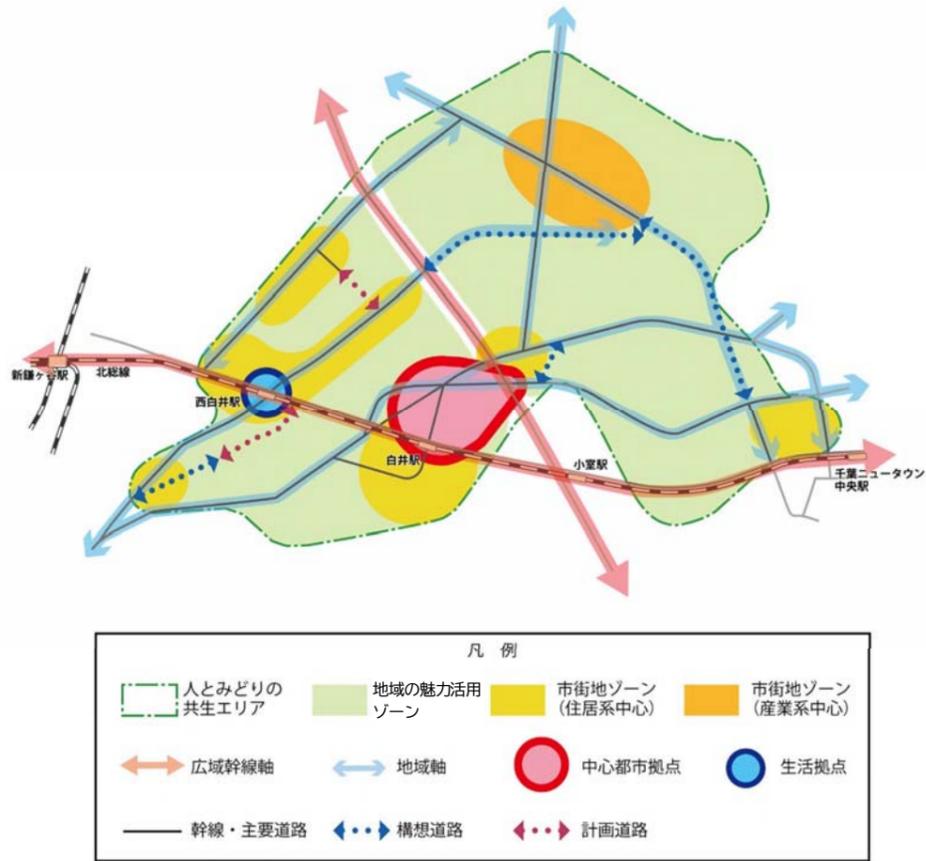


図 10年後の白井市の将来都市構造図

※みどり(再掲)

樹木、樹林、草地、草花などの「植物の緑」だけでなく、河川や湖沼などの「水辺空間」、さらには公園や広場、道路、学校などの「公共の緑の空間」、家々の玄関先や生垣、庭、工場、事業所、田畑、果樹園、空き地(遊休地)、里山などの「民間の緑の空間」のことを指す。

7.2 将来都市構造

将来都市構造を次のように定めます。

「市街地ゾーン」では、人のくらしや産業を中心としたまちづくりを進めます。

「人とみどりの共生ゾーン」は、人とみどりが共生しながら、地域の特性や魅力、ポテンシャルを生かしたまちづくりを進めます。

「中心都市拠点」では、コンパクトでにぎわいのある拠点づくりを進めます。「生活拠点」では、地域住民のくらしを支える拠点づくりを進めます。

また、「中心都市拠点」や「生活拠点」と市内の各地域、そして市外を「広域幹線軸」や「地域軸」によって結ぶことで、にぎわいの創出や利便性の向上を図ります。

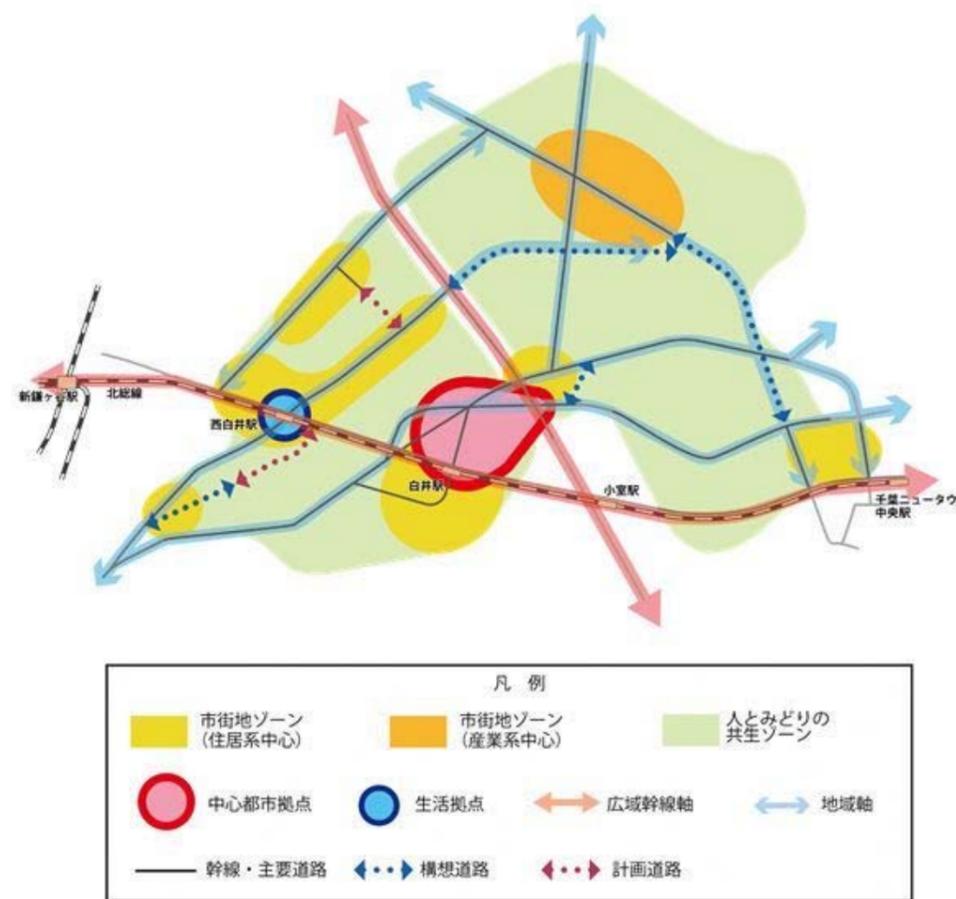


図 10年後の白井市の将来都市構造図

パブコメ意見
将来的に国道16号線の北側区域(主に”人と緑の共生ゾーン”)の活性化が市全体のまちづくりに貢献でき、人の交流に繋がるものと思われま...

パブコメ意見
将来都市構造についてですが、鉄道沿いのまちづくりと幹線道路沿いのまちづくりがありますが、後者については、464を利用した成田空港へのアクセスの良さ、国道16号、圏央道へのアクセスなど、産業誘致の側面を打ち出した内容にはできないのでしょうか。

パブコメ意見
市の取り組みの中で白井工業団地の活性化について、成田空港の拡張開港を視野に様々な施策を構築しているかと思いますが、この”産業の創出”の一環で工業団地へのアクセス道路の整備を実施しております。この第5次計画内では完了が困難のようであり、またこの基本構想(素案)で、「7.2 将来都市構造」を再掲していますが、西白井駅より南方向に延びる計画道路(16号線を横断)は依然”絵”(紙面)の中であり、この道路沿線をあらたな産業創出の拠点と計画しているのであれば、早期の決定、推進が必要と思われま...